

第2学年商業科 シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	情報処理	学年	2年	類型	商業科
単位数	2	教科書	最新情報処理 Advanced Computing	出版社	実教出版		
副教材	全商情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報1級						

学習の到達目標

- (1) ビジネスに関する情報の収集・処理・分析を行い、表現する知識と技術を習得できる。
- (2) ワードプロソフト、表計算ソフトの活用に関する基礎的・基本的な知識と技術を養うことができる。
- (3) 情報モラル、セキュリティ管理の重要性について理解できる。
- (4) 自らが学習の主役となり、主体的に考え、能動的に学ぶ力を養う。

授業の概要

- ・情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解していくとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を養います。
- ・グループ活動や課題解決型の手法を授業に取り入れ、身に付けた知識を活用しながら、新たな問題を発見し、解決する能力を養います。
- ・2学期以降は演習を多く取り入れ、検定試験に対応できる力を養います。

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 <u>何ができるようになるか</u>	・企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 <u>何ができるようになるか</u>	・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 <u>どのように学ぶか</u>
評価の対象	定期考査・単元確認テスト・小テストなど	定期考査・単元確認テスト・小テストなど	週末課題や訂正ノートなどの提出物、振り返りシート・授業時の観察など
備考	・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい (内容のまとめりごとの評価規準)	定期考査
1 学 期	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現	・情報と文書の関係などについて興味を持ち、各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解できたか。	1学期 中間考査
	2節 基本文書の作成	・ワープロを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できるか。 ・ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを理解できたか。	
	3節 応用文書の作成	・計算機能などを利用した文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択できるか。 ・表計算ソフトウェアと連携した文書作成ができ、罫線表の機能などを理解できたか。	1学期 期末考査
2 学 期	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法	・効果的なプレゼンテーションの仕方について興味を持ち、適切な実施や評価ができるか。 ・プレゼンテーションの準備などの流れの概要を理解しているか。	2学期 中間考査
	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	・実習に積極的に取り組み、目的に応じた資料作成などを考察できるか。 ・分かりやすい資料を作成でき、プレゼンテーションソフトウェアの特徴などを理解しているか。	2学期 期末考査
3 学 期	検定試験対策	・検定試験の模擬問題を解く	学 年 末 考 査
	総合演習Ⅰ (データベース演習) 総合演習Ⅱ (表計算演習)	・各種ソフトウェアを活用し、実習に積極的に取り組み、適切な文書などに必要な処理などを考察できるか。また、様々なソフトウェアと連携した文書などが作成でき、多様な機能などを理解しているか。	

第2学年商業科 シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	財務会計 I	学年	2年	類型	商業科
単位数	3	教科書	『財務会計 I』（190東法 商業729）	出版社	東京法令出版		
副教材	『完全段階式標準検定 簿記問題集 全商1級会計』						

学習の到達目標

- (1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにします。
- (2) 企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠にもとづいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養います。
- (3) 会計責任を果たす力の向上を目指してみずから学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。

授業の概要

企業が作成する財務諸表について、どのような企業活動が前提にあり、これがどのような考え方に基づいて認識、測定、記録、表示されているかについて理解を深めます。そこでは我が国の会計原則の規範である「企業会計原則」を損益計算書を基本とし、当該財務諸表によってもたらされる企業活動情報の総合的な理解を図ります。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、財務会計をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見だすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力および財務指標を組み合わせて企業の実態を総合的に分析する力が身についている。	会計責任を果たす力の向上を目指してみずから財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が身についている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察 検定試験(簿記検定)	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況 振り返りシート・ルーブリックなど
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

第2学年商業科

シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	原価計算	学年	2年	類型	商業科
単位数	4	教科書	原価計算 新訂版	出版社	実教出版		
副教材	完全段階式 標準検定簿記問題集 原価計算						

学習の到達目標

- (1) 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得し、原価の概念について理解する。
- (2) 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身につける。
- (3) アクティブラーニング手法を取り入れ、主体的に考える力を養う。

授業の概要

- ・各種の原価計算方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど、思考を深めながら基礎的・基本的な知識と技術が習得できるよう工夫します。
- ・グループワークやパソコンでの学習を取り入れることで、生徒が主体的に活動できるよう工夫します。
- ・全商協会主催の検定試験だけでなく、日商簿記検定にも挑戦します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解し、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。
評価の対象	定期考査、単元確認テストなど	定期考査、単元確認テストなど	課題プリントなどの提出物、授業時の積極性など
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算	1 原価と原価計算について理解する。 2 原価計算のあらましを理解する。 3 製造業における簿記を理解する。 4 材料費の計算と記帳ができる。 5 労務費の計算と記帳ができる。 6 経費の計算と記帳ができる。 7 個別原価計算を理解する。 8 部門別個別原価計算を理解する。 9 総合原価計算を理解する。 10 工程別総合原価計算を理解する。 11 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理ができる。	1学期 中間考査 1学期 期末考査
2 学期	第4編 製品の完成・販売と決算 第5編 標準原価計算の基礎 第6編 直接原価計算の基礎 全商簿記検定対策	12 製品の完成と販売について理解する。 13 決算と本社・工場間の取引を理解する。 14 標準原価計算（その1）を理解する。 15 標準原価計算（その2）を理解する。 16 直接原価計算（その1）を理解する。 17 直接原価計算（その2）を理解する。 検定問題練習に取り組む。	2学期 中間考査 2学期 期末考査
3 学期	日商簿記検定対策	全商簿記実務検定試験 発展問題に取り組む。 検定問題練習に取り組む。	学年末考査

第2学年商業科

シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	課題研究（インターンシップ）	学年	2年	類型	商業科
単位数	1	教科書		出版社			
副教材							

学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを通して、自分の能力、適性等の理解を深める。 ・インターンシップを通して、多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。 ・インターンシップを通して、職業や職業生活についての理解を深め、将来の進路について現実的に考える。
--

授業の概要

<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育を通じて、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な能力等を育てる教育を行います。 2 地元企業でインターンシップを実施し、実践的・体験的な学習を行います。 3 プレゼンテーションソフトウェアを用いた発表を行います。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・地域の現状や課題について理解を深め、地域創生を担う使命感を持つことができている。	・実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な考察を深めることができている。 ・自らの考えを他者に的確に伝えることができている。	・企業概要調べに関しては、インターンシップ実習前に提出されたレポートと、実習後に提出された実習ノートを基に、いかに積極的に調査をしているかについて評価する。
評価の対象	・提出物（課題、レポート等）	・グループ活動 ・プレゼンテーション演習 ・実習態度	・出席状況 ・授業態度
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学 期	他科目に振替 (財務会計)		
2 学 期	他科目に振替 (財務会計Ⅰ) 1. 事前指導 2. 資料作成 3. インターンシップ 準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップの目的・意義 ・ 自己紹介カード 実習ノート作成 ・ 企業との交渉 	
3 学 期	4. インターンシップ 実施 5 報告会 ・ 発表 ・ 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2日間のインターンシップ ・ プレゼンテーション発表 ・ 感想文・礼状・報告書の内容を踏まえ、総合的に評価する。 	

第2学年商業科

シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	マーケティング	学年	2年	類型	商業科
単位数	3	教科書	マーケティング 新訂版	出版社	実教出版		
副教材	マーケティング 新訂版 問題集						

学習の到達目標

- (1) 激しく変化する現代市場においてマーケティングが果たす役割とその意義を理解させる。
- (2) マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得させる。
- (3) マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。
- (4) マーケティングに関連する職業への認識を深めさせ、進路選択の幅を広げる。

授業の概要

- ・マーケティングに関する具体的な事例を取り上げ、顧客満足の実現を目指すマーケティングの在り方について考え、マーケティング活動について主体的・創造的に学習します。
- ・グループワークやパソコンでの学習を取り入れることで、生徒が主体的に活動できるよう工夫します。
- ・全商協会主催の検定試験だけでなく、日商簿記検定にも挑戦します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、マーケティングの意義や役割について理解している。また、マーケティング活動を合理的に計画し、その技能を適切に活用している。	マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	マーケティングについて関心を持ち、マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、マーケティング活動を行う実践的な態度を身に付けている。
評価の対象	定期考査、単元確認テストなど	定期考査、単元確認テストなど	課題プリントなどの提出物、授業時の積極性など
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第1章 現代市場とマーケティング	1 現代市場の特徴を理解する。 2 マーケティングの概要を理解する。	1 学期 中間考査 1 学期 期末考査
	第2章 市場調査	1 市場調査の意味を理解する。 2 市場調査の手順を理解する。 3 実態調査の方法を理解する。	
	第3章 消費者行動	1 消費者行動と購買について理解する。 2 購買意思決定過程を理解する。 3 製品のライフサイクルと普及について理解する。	
	第4章 販売計画	1 販売計画と販売予測について考察する。 2 立案・実施・統制について考察する。	
2 学期	第5章 製品計画	1 製品計画の要素を理解する。 2 製品ミックスと製品政策について理解する。	2 学期 中間考査 2 学期 期末考査
	第6章 仕入計画と商品管理	1 仕入計画を考察する。 2 商品管理を考察する。	
	第7章 販売価格	1 販売価格の決定について考察する。 2 価格戦略を理解する。	
	第8章 販売経路	1 販売経路の設定について理解する。 2 販売経路の強化について理解する。	
	第9章 販売促進	1 販売促進の重要性を理解する。 2 広告について考察する。 3 販売員活動について考察する。 4 ブランドについて理解する。 5 信用販売について理解する。 6 その他の販売促進について考察する。	
3 学期	演習	<p>検定模擬問題に取り組む。</p> <p>全商商業経済検定</p> <p>1 ブレーンストーミングに取り組む。 2 プランニングに取り組む。 3 プレゼンテーションに取り組む。</p>	学年末考査